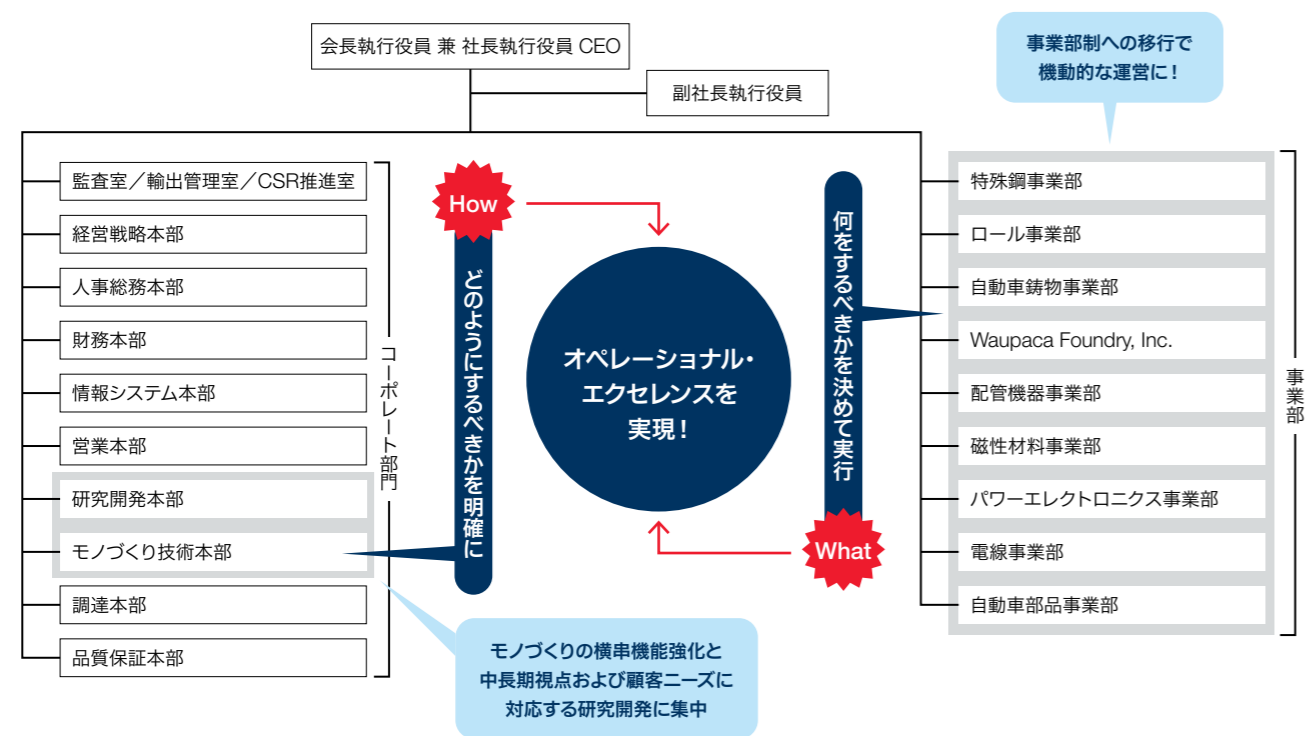


# 強みの強化・最大限の発揮に向けて

2023年4月より、環境変化に対応する機動的なオペレーションとグローバル成長の加速を図るために組織体制を強化しました。この組織体制でモノづくりをグローバルで最適化し、“質の量産”を具現化していきます。

## オペレーショナル・エクセレンスを実現する組織体制

これまで当社では、製品・事業・拠点ごとに卓越したモノづくりを実践してきました。今回の組織強化施策では、「事業部制への移行」と「モノづくり技術本部の新設」という2つの大きな変革を実施しました。この変革により、今後はさらにグローバルで市場の変化やニーズを的確に捉えるとともに、グローバルに標準化、最適化されたモノづくりによって市場ニーズに対応します。事業部とコーポレート部門の連携によりオペレーショナル・エクセレンスを実現し、これまで以上に世界中の多くのお客さまに高品質な製品を提供していきます。



## 1 事業部制への移行

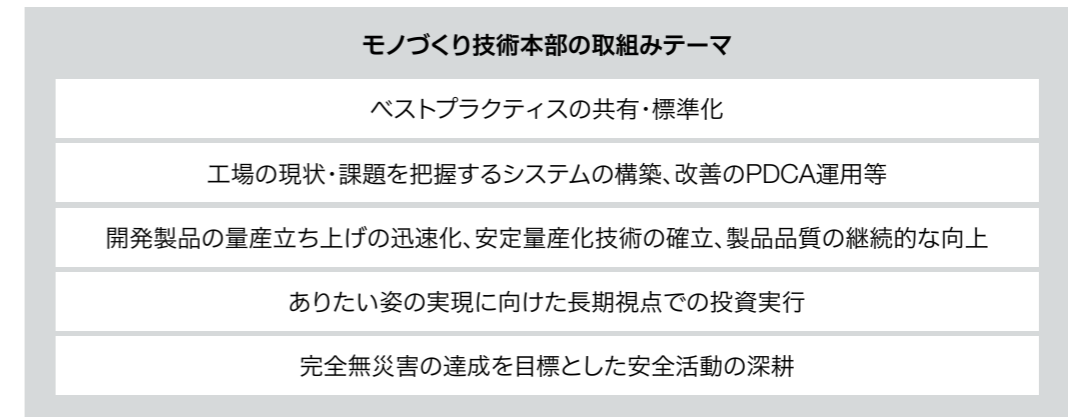
### 機動的な事業運営を実現

当社には広範な事業領域があり、各事業領域において、当社が直接お取引をするお客様やその先の製品エンドユーザー、さらには社会全体の志向やニーズが急速な変化を続けています。こうしたなか、2事業本部制から9事業部制へと移行しました。事業部はCEO直轄であり、それぞれの市場・競争環境、顧客ニーズ、技術動向に対応し、より迅速かつ柔軟にリソースを配分することにより、成長戦略を遂行します。また、事業部がこれまで以上にきめ細かくお客様とコミュニケーションし、提案力・スピードを上げるとともに、お客様との協創を活発化します。

## 2 モノづくり技術本部の新設

### モノづくりの標準化・最適化

モノづくり技術本部は、製造のみならず、安全、設備投資、環境対応等、モノづくりに関連する全ての側面から各事業部のモノづくりに横串を通す役割を果たします。モノづくり技術本部が軸となり、グローバル規模で、ベスト・プラクティスの共有化、製造プロセス管理や改善の手法などの標準化・最適化を推進します。そのうえで、各製造拠点の課題を特定、改善のためのアクション・プラン策定、実行というPDCAを回す体制を整えます。



モノづくり技術本部は、How we do(=どのようにするべきか)を明確にし、当社のモノづくりの進化をリードします。各事業部は、モノづくりの主体としてWhat we do(=何をすべきか、何をどこで誰に作って売るか)を決めて実行します。

### 研究開発本部の設置

中長期的な成長戦略に沿った研究開発方針を策定・実行するために、研究開発本部を設置しました。事業部では短期・中期的な計画を中心に研究開発を担い、当本部はDXの推進など新たな技術を取り込んだ破壊的・非連続のイノベーション等へ挑戦します。

### グローバル技術革新センター(Global Research & Innovative Technology center : GRIT)

持続的成長と社会貢献に資する中長期を見据えた先端材料研究開発の推進を目的としたコーポレート研究所です。GRITは当社が持つ知見を集結するだけでなく、オープンイノベーションを積極的に展開します。これにより社会の急激な変化にスピーディかつ、革新的な視点、技術をもって対応し、当社事業の発展を先導します。

